日刊工業新聞

年月日	21	11	02	ページ	11	NO.	

富士電波、開発人員を集約

滋賀工場に新棟

今月中旬稼働

富士電波工業（大阪市淀川区、横畠俊夫社長）は、11月中旬をめどに高周波加熱装置など主力の工業用電気炉を手がける滋賀工場（滋賀県湖南市）内に新事務所棟を稼働させる。同工場内の3カ所に分散していた設計・開発人員を1カ所に集める。無機化合物材料などの加熱・焼結で、環境対応強化による研究向けの大型炉受注も増加を見込んでおり、開発を効率化する。投資額は約2億円。

▲新棟に開発人員を集める（富士電波の滋賀工場）

滋賀工場は敷地面積約1万6000平方㍍。新事務所棟は3階建てで延べ床面積は約720平方㍍。工場正面入り口に面し、核となる2階は滋賀工場で働く計70人程度のうち工業用電気炉に携わる約50人を収容可能。点在していた設計・開発人員が一堂に集まって仕事ができる。コンピュータ利用設計・製造（CAD／CAM）の専用スペースも設けた。1階は総務関連の勤務場所と会議室などとし、3階には食堂を置く。

新棟の設計・開発フロアは固定席にせずアクティビティー・ベースド・ワーキング（ABW）を導入し、柔軟な連携を促す。開発者が勤務する現3カ所の施設は取り壊さずに、卓球台を置くなど社員の健康維持に生かす。

富士電波の2021年8月期の売上高は約37億円。19年に約2億円を投じて滋賀工場を拡張していた。工業用電気炉は車載・産業用モーターの磁性材料の熱処理、半導体向けファインセラミックスの焼結用などで研究用途を含めて、受注拡大への社内基盤を整える。

無断転載・複写禁止㈱日刊工業新聞社